
UMA戦争

window

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

UMA戦争

【Nコード】

N0827Q

【作者名】

w i n d o w

【あらすじ】

突如都心に現れた生物塔。

町に取り残されたのは5人の子供だけ。

不思議な力に目覚めた彼らは生物塔の天辺を目指して駆け巡る

一序章一（前書き）

初めて描いた物語です。

見苦しい文章もありますが、どうかそこは暖かい目で見てやってください。

見ての感想もいただければ幸いです

一序章一

——8月某日。

山は緑に包まれサンサンとした日が照りつける白昼。
かずや

和也は空の色を見てギョツとした。

空は見たことないほどの厚く暗い雲に覆われている。

その空を見た和也の母親が言った

「夕立でもくるのかしら：洗濯物入れなきや」

―違う。夕立なんかではないと和也は直感で感じていた。

和也の根拠のない直感は意外と当たる。昔から勘だけはいいのだ。

「母さん、何か変だよ。こんな空の色みたことないだろ？」

「大丈夫よ」

和也の言葉は軽く笑いながら流された。

突然、地面にゴゴゴ：と地鳴りが響く。だんだん大きく。

次の瞬間ドーンという音と共に地面に突き上げられるような揺れが襲った。

「地震だっ！……？あれ？」

不思議なことに揺れは1秒もなく収まっていた。

和也は母と顔を見合わせお互い狐につままれたような顔をする。

テレビを見ても何の情報も得られずその日は過ぎていった：

午前8時。けたたましいベルに起こされた。

「やけに目覚めがいいな」

和也は布団の上で軽くけのびをし、カーテンを開ける。

「……？なんだあれ」

遠くに塔のようなものが見えた。

当然和也の家から東京タワーもスカイツリーも見えはしない。

不思議に思った和也は階段を駆け下り、リビングへと向かった

「お母さん、なんか変な塔みたいなの立ってない？あれなに？」

「…お母さん？」

返事がない。

台所には調理していた後、机には父親が読んでいたろう新聞が置かれていた。

テレビだけが無機質なアナウンサーの声だけを流し続けていた。

「東京都にお住みの都民のみなさまは速やかに指定の避難所に避難してください。」

東京都にお住みの都民のみなさまは速やかに指定の避難所に避難してください。」

「…何だよ。母さんや父さんも避難しちゃったのかよ。起こしてくれればいいのに。」

文句をぶつぶつと垂れながら避難の用意を済ました和也は指定避難所の学校へ向かった。

一集合一

町は静寂につつまれていた。学校へ行く道に誰とも会わない。避難避難とうるさく言っている割には町の姿はまったく変わっていなかった

みんな避難を完了してしまっているのではと一抹の不安が頭をよぎる。

すると、向こうから校門へ向かって歩いてくる人影が一つ。

里緒^{りお}だった。里緒も不安だったようで、和也の姿をみてほっとした顔を見せた。

里緒は幼稚園からの幼馴染。小学校時代は毎日のように遊んでいたが中学に入ってからろくに口もきいていなかった。

里緒は美人で男子からの人気も高い。それが和也にとっての面白くないことの一つでもあった。

「あーっ！カズじゃん！よかったあ…。私一人だけかと思ったよ…。」
少し笑いながら状況を話合い体育館へと向かう。

体育館の中に入ると、たくさんの毛布が敷き詰められていた…。人が誰もいない。

不気味な静寂につつまれ、どこか空気が重くも感じられる。

「なんで誰もいないんだ…？」

「なんでだろーね…？」

二人とも同じことを言った。顔を見合わせる。

「まあ、どっかに行ってるんだらう。みんなすぐに戻ってくるさ」

「だね。」

二人は床に座った。ひんやりとした床は汗をかいだ体をスーッと冷やす。

「そうだ！朝ごはん食べるか？いっぱい家から持ってきたんだ」

「食べる食べる！なんにも食べてなくてペコペコだったんだよ…」

「はい、クリームパ…」

「あーっ！！お前ら二人で何してんだ！！」

後ろから聞き覚えのある甲高い声する。振り向くと智也^{ともや}と剛^{つよし}と彩^{あや}の3人だった。

「俺にもよこせよな」

太く低い声で和也の鞆を漁っているのは剛。

剛は言わば町のガキ大将のようなもの。すぐく力持ちで乱暴者。

「ボクもボクも♪」

それにすぎるようにくつついて離れないのが智也。

簡単に言う剛の腰ぎんちゃくのようなもの。家はお金持ちで温室育ちのぼっちゃん。

「やめときなよ二人ともお」

二人を制止にかかるのはお世話好きの彩。とてもおっとりしている癒し系メガネっ子。

一応全員幼稚園からの付き合いである。

「わっ！京野幼稚園5人組そろったじゃん♪」

里緒が明るい声で言った。とても嬉しそうな顔をしている。

「久しぶりだねえ。みんな集まるの」

彩がおっとりとした口調で続けた。

「ところでよ。一応俺ラジオ持ってきたんだ。聞こうぜ！」

ラジオ特有のチューニング音が響いた。

興奮した様子のアナウンサーの声が聞こえてくる。

「どうしたことでしょいか！避難所から次々に人が姿を消しています！」

「…え？」

五人が顔を見合わせた。するとアナウンサーが続ける。

「もう東京都内には誰一人として残っていないようです！」

「ええええええええ！！」

五人が声を合わせて叫んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0827q/>

UMA戦争

2011年1月16日02時52分発行